



久米のり本



特別
千12
3643
18



楠露

^{正成}
 是多楠正成也。板と須歌尊氏大興乎
 して上洛も今由國石をいふ成よ
 池向。義貞ふ力を合さよとの宣言に
 但せ。唯し、兵庫乃津へ流下りけ。又なる
 子細の事問ふ。行を旧郷を尋らるや
 思ふ作いふ詔り有 ^{トモ} 内前 ^正 満一



心行よしおほくはかたきまじき入^{十五}あて
作らに恩地殿ふやけ若君の由信申し
ろき赤本陣をいまりあれとら由事
あく^湍受てはあまやうき君の清り信
申て^正いたはゆりあうやうあよるし
園の初めはなれ出陣に成討死す入る
時こそ至りこれあふ付て心行の満一を伴

千早よ御命のあし程の忠勤一
ふ代教の下を憐れまうこゆさしを
しきゆを又満一ふゆりの成長乃程代
頼心也。是くを世の別と思て、あま古
心^子あま^子あま^子あま^子あま^子あま^子あま^子
う前の家ふはれ父乃最期をようふ
見く。誰か面をたまきとあま^子あま^子あま^子

て孫の^正人^正は^正事^正を^正者^正の^正人^正
皆朝廷の清為あれ^正と^正し^正て^正す^正
早は^子精^子人^子如^子何^子の^子清^子為^子成^子も
^正お^正の^正事^正の^正な^正り^正か^正ら^正し^正や^正
ま^正と^正父^正の^正申^正事^正の^正随^正は^正る^正や^正恩^正愛^正の^正
^正ま^正と^正父^正の^正申^正事^正の^正随^正は^正る^正や^正恩^正愛^正の^正
^正ま^正と^正父^正の^正申^正事^正の^正随^正は^正る^正や^正恩^正愛^正の^正
何^正と^正ら^正し^正ま^正言^正の^正紫^正も^正あ^正ら^正し^正袖^正を^正

志^正向^正り^正は^正る^正長^正の^正た^正ら^正き^正ま^正は^正ら^正ず^正
^正正^正に^正言^正の^正紫^正も^正あ^正ら^正し^正袖^正を^正
諸^正と^正送^正後^正尊^正の^正兄^正弟^正西^正海^正よ^正り^正大^正
軍^正を^正率^正ひ^正上^正洛^正ま^正り^正由^正叡^正聞^正は^正ら^正ず^正
^正意^正を^正成^正ふ^正弛^正む^正と^正る^正身^正も^正ろ^正き^正
送^正伐^正す^正ま^正の^正勅^正定^正あり^正正^正成^正護^正て^正
申^正ら^正れ^正横^正を^正び^正度^正送^正後^正の^正ま^正り^正事^正

阿平と云ふ大軍と云。勞きたる家
官軍を以て食留いりし中
存と云ふ。義貞を石師に記。今
一度叡山へ行幸ありなり。必定
逆後上洛はし。其時正成の糧道
を断ち。義貞と内外より責を
しむむ。志あり。亦勝利疑る

者くると。必勝の計議をやらんと
いたる。坊門殿の所へあり。既而防
戦小定する事。偏々天運乃極り也
夫日月ふにあさあり。如きは。雲
旁をりを霞ふた。今ふと
知らぬ事あき共。歎きてもまあ
備り阿平。良薬口に苦く。忠言

耳ミミ小コ道ミチのノ故コト事コトをヲ語カガハシりシ給タマふ
藤フジ房フシれハのノ妻メをヲ道ミチれハのノ成ナリ首カビをヲ道ミチれハ
心ココロ中ナカ清スガくク世ヨをヲ思オモふコト思オモふコトありアリ
救サツ千チ丈ジヤウ乃ノ巖イハよりヨリ石イシをヲ投ナゲるコトをヲ道ミチれハ
心ココロをヲ子コ獅子シシのノ機キ力リキあリれハのノ教オシえルにニ

宙ソウよヨもモもモ死シしてシ死シすコトをヲ道ミチれハのノ況キヤウやヤ
正セイ行ギヤウ十ジュウ歳サイのノ一イチ言ゴン耳ミミにニ宙ソウめメ
池イケ教オシえルのノ遠トウくク我ワ討ウチ死シすコトをヲ道ミチれハ
同ドウくクもモ教オシえルをヲ道ミチれハのノ道ミチをヲ道ミチれハのノ道ミチをヲ道ミチれハ
歌ウタをヲ平ヘイけテてテ運ウンのノ用ヨウをヲ道ミチれハのノ用ヨウをヲ道ミチれハ
おオもモるコトをヲ道ミチれハのノ道ミチれハのノ道ミチれハのノ道ミチれハ
羽ウをヲ道ミチれハのノ道ミチれハのノ道ミチれハのノ道ミチれハのノ道ミチれハ

あゝをを程の帝^{ヤラ}君を守護
るるの心聊あき跡の汚名を
清くちぎらるる思ひ撫子か
子源や楠の露^{ヤラ}時^{古手満}も此の五月
雨乃ち枝を志き留^{正上}下草のさ下り
志多^{正上}家後^{ヤラ}花散^{ヤラ}りてまの夢
櫻井の名にたよ^{正上}りて朽^{正上}をける石^{正上}よ

ちれたる楠の葉れ恨みも何
あまゆる^正鄙人^正途を衰^正ゆる
恩愛^子親子^{三人}後の^{下月}まのま
今更^正お泪を袖^正お満^正一^正ち酌^正よま
おあす^正清^正き名^正を千代^正お傳^正へて
菊水^北乃^北流^北きろ^北き^北湊^北川^北
衆人^満名^満鏡^満と成^満り^満まの^満を^満れ

花橋乃白にぬるうれく

下正 時刺と移るある

精まといはきよに作ふある子

主従をぬ涙をひるくむ

名と清き河川の國へ結る

孝行 留る忠義のが

多し 有 後



